

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	06207
----------	-------

1. 開設大学	県立広島大学 生命環境学部	開講場所 (キャンパス・施設)	広島キャンパス			
2. 科目名	豊かな社会につながる環境科学					
	学問分野	番 号	43 名 称 環境			
3. 担当教員	西本 潤 生命環境学部 環境科学科 准教授 青柳 充 生命環境学部 環境科学科 准教授					
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 30 年 7 月 28 日 (土)					
	9 時 00 分 ~ 10 時 30 分 (西本) 10 時 40 分 ~ 12 時 10 分 (青柳)					
個別開講日	1 回目 /	2 回目 /	3 回目 /	4 回目 /	5 回目 /	6 回目 /
	7 回目 /	8 回目 /	9 回目 /	10 回目 /	11 回目 /	12 回目 /
5. 募集定員	30 人					
6. 科目内容・ 授業計画	<p>現在の環境科学では人間社会との調和を図りつつ環境を守ることが求められています。水圏と陸圏の問題について講義を行います。</p> <p>1. 水圏の環境科学 (西本潤) 世界ではまだ海や川の環境汚染が問題となっている所がありますが、日本では微妙なコントロールが問題となっています。見かけでは富栄養化になっていないにもかかわらず赤潮が発生する海域が出てきたり、逆に規制をかけ過ぎて貧栄養となった海域が有ったりするなどのことです。貧栄養になった海域に栄養塩である窒素やリンを流していけばよいとはなっておりません。本講座では主に化学的な側面からこの問題に関係する話をします。</p> <p>2. 陸圏の環境科学 (青柳充) 現在、世界で地球温暖化の抑制と炭素資源の確保に注目が集まっています。両者には密接な関係があり、持続的な社会を創り出すためにはこれらの課題を同時に解決していく必要があります。私たちの日常生活に目を向けると、生活の質を上げるものとしてプラスチックなどの高性能な素材が活用されています。これらの素材は、その製造・使用・廃棄の各段階で温室効果ガスの排出量などの環境負荷と、それらの原料となる炭素資源に密接にかかわっています。 私たちは、これらの課題の解決を目指し、光合成による二酸化炭素の固定によって得られる「植物資源 (木材など)」の循環性と資源価値に注目し、未来の社会につながる機能性素材や環境調和型材料の開発・研究を行っています。 本講座では陸圏の環境科学と題して、地上で生産される植物資源の素材への活用に関する化学的な研究について紹介します。</p>					
7. 受講料	無料					
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし					
9. 開講条件※1 あり・ない	① 最少開講人数 ( 5 人) 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 6 月末 (7 月 13 日 (金) 以前の開講科目は 3 月末まで / 7 月 14 日 (土) 以降の開講科目は 6 月末まで)					
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと <a href="http://www.enica.jp/">http://www.enica.jp/</a> から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					
11. 開設大学への 交通手段	<a href="http://www.enica.jp/">http://www.enica.jp/</a> から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。					

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。